

大型図書紹介記事

【様式3】

選定年度	所属学部	氏名	大型図書タイトル	紹介記事
2023	経済学部	今井 敦	Simplicissimus. Illustrierte Wochenschrift. (ジ ンプリチシムスー 絵入り週刊雑誌)	<p>『ジンプリチシムス』は、19世紀から20世紀へと至る世紀転換期にドイツのミュンヘンで創刊され、1944年まで続いた。文芸誌として、また政治や社会に対する諧謔精神溢れた絵入り諷刺雑誌として、帝政期から第一次世界大戦、ヴァイマル共和国期、ナチズム政権、第二次世界大戦という、激動のドイツ社会を映す鏡となった。辛辣なテキストとグロテスクにも見えるイラストによって読者の反感を煽ると同時に笑いを誘い、幾度も当局の取り締まりの対象となっている。同じ時期、ドイツ語圏で創刊された雑誌に『牧羊神(パン)』と『ユーゲント』があるが、「ユーゲント様式」(アール・ヌーヴォー)と呼ばれる美術様式を生み出したこれらの雑誌が審美的、芸術至上主義的であったのに対し、『ジンプリチシムス』は明らかに反封建主義的、反教會的傾向が強く、帝国社会特有の臣民根性、偽善的市民道徳を容赦なく諷刺の対象とした。戦間期にはナチズムおよび反ユダヤ主義に対する戦いの場ともなり、ナチスの政権掌握後、創立来の編集部メンバーや下記の著名な寄稿者たちの多くが亡命を余儀なくされた。</p> <p>創刊: 1896年、アルベルト・ランゲン 主な寄稿者: トーマス・マン、ハインリヒ・マン、フランク・ヴェーデキント、ライナー・マリーア・リルケ、ローベルト・ヴァルザー、オットー・ユーリウス・ビーアバウム、ヤーコプ・ヴァッサーマン、ヘルマン・ヘッセ、リヒャルト・デーメル、カール・クラウス、グスタフ・マイリング、フーゴ・フォン・ホーフマンスタール等。 挿絵画家: トーマス・テオドア・ハイネ、カール・アルノルト、ヨーゼフ・ベネディクト・エンゲル、オラーフ・グルブランソン、エルンスト・ハイレマン、ブルーノ・パウル、フェルディナンド・フォン・レツニチェク、ヴィルヘルム・シュルツ、エドワルト・テニー、ルードルフ・ヴィルケ等。</p>